シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第17回

中部森林管理局技術普及課
井上（いのうえ）　日呂登（ひろと）

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「測量」

昭和三十年代初め頃の測量風景（現在の愛知森林管理事務所管内）

森林を管理するにせよ林業を行うにせよ、その土地の状況が分からなくては何も始まりません。このため、測量を行い管理経営の計画を立てることは昔から最優先事項の一つでした。

明治時代の頃は山岳地帯の近代的な地図の製作は進んでおらず、林野庁の前身である帝室林野局や農商務省山林局でも自ら測量を行う必要がありました。このため、日本アルプスの主要な山岳の中には名も知られていない国有林の測量官によって初登頂されたと考えられているものが幾つもあります。

測量においては登山道のような整備された場所を歩けるとは限らず、測量基準点を確保するために危険なルートを進まなければならないこともしばしばありました。特に今と違い重量のあるかさばった機材を使っていた時代の測量は、山の中で長い期間、野営をしながら行う必要もあり、命の危険もある大変過酷なものであったと伝わっています。

昭和三十年代初め頃、測量作業のための移動風景（旧名古屋営林局管内）

現代では航空写真の利用、レーザー測量、GPSをはじめとする人工衛星からの情報など様々な技術が地理情報の分析に使われるようになりました。測量等の成果は経営計画の策定、土地の境界の確認、治山・林道などの土木工事の設計、調査研究など多くの場面で利用されていますが、新規の測量は専門の企業に委託することが多くなっています。

昭和四十年代頃の測量風景（旧名古屋営林局管内）

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むか～しの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、QRコードを読み込んでください。

モノクロ